

げんき通信⑨

仙北市長 門 脇 光 浩

「^{いのち}生命の田沢湖へ」

たまに田沢湖畔を回って出勤します。ほとりに車を止め、人影のない白浜で課題の解決策に考えを巡らしたりもします。遊覧船の栈橋に立ち、フツと湖面をのぞくと、群れをつくって泳ぐウグイの姿。もちろん魚のことを心配する余裕などありません。人様は厳しい経済状況と雇用環境。ただフツと忘れかけた情熱が、心の中で波立つのを覚えます。

今から70年前まで、田沢湖は杜の湖、魚の宝庫でした。クニマス、ウナギ、コイ、フナ…。ところが国策という名の下（電源開発や開田振興で玉川の強酸性水を流入）で、以降は死の湖と称されるように。辛い事実、目の前の現実です。

自分は、田沢湖再生を政治課題の一つにしています。「どうして田沢湖には魚がないの？」と言う子どもの問いかけから始まった放流事業、故原盛一県議との水源活動、田沢湖に生命を育む会、清掃ボランティア、鳴き砂プロジェクト、丸木舟づくり…。それぞれ活動に参加させていただく度に、次世代には、生態系・田沢湖の再生こそ、昭和に生きた者の責任だ、そんな思いが膨れ上がります。環境型社会を世界が標榜する中、再生活動自体、産業や雇用を生み出す温床にも成り得ます。

今年のだざわ湖祭りには、こんな気持ちで参加させていただくつもりです。

かくのだてフィルムコミッション
ロケーションだより

映像文化の全国的な交流が、

この地を舞台に繰り広げられます！

Japan film commission

ジャパンフィルムコミッション全国総会 in 仙北市

平成22年度ジャパンフィルムコミッション全国総会が、9月29日(水)から30日(木)に仙北市で開催されることになりました。過去には京都などの主要都市で開催されています。仙北市がこの総会の開催地に選ばれた経緯は…。

今年度総会のテーマは「日本らしさ」。「隠し剣鬼の爪」などの時代劇や日本の原風景がある地であること、また、かくのだてフィルムコミッション(坂本洋 会長)の規模的には小さくても積極的な活動をしていることが認められて開催地に選ばれました。

FC全国総会には毎年、全国から100～150人ほどのFC・映像・制作関係者が集まります。

今年にかくのだてFCを中心に実行委員会を編成し、より多くの人々が映像や地域の文化、FCへの理解を深められるプランで楽しんでいただこうと考えています。映像メディアとのつながりや今までに育んだ映画を始めとする映像制作協力の実績は、仙北市の資産のひとつ。深めて広げれば、新たな産業づくりのヒントも生まれます。

市民も参加できるこのイベントがどんな内容で行われるかは、次回以降お知らせいたしますので、ご期待ください。



仙北市で撮影された映像は、地域の資産です

■問合せ かくのだてフィルムコミッション(仙北市観光課内)
TEL 43-3352 <http://kakunodate-fc.jp/>